

増刊HSK

会報「石川守る会」

NO.103

石川県重症心身障害児（者）を守る会
全国重症心身障害児（者）を守る会
石川県支部 会長 永井 一郎

明けましておめでとうございます。

3年間続いていたコロナ感染症による規制も少し解消されて、去年は全国大会やブロック大会にも参加でき、今年から支部の活動も少しずつ再開させて行きたいと考えているところでした。

突然元日の夕方今まで経験したことのない大きな地震が石川県を襲いました。連日被害の実態が報道されており、会員のみなさんの安否が一番心配なところですが能登のみなさんとは中々連絡がとれず、気をもんでいます。

コロナ感染症対策のため会員同士のつながりが弱くなっていたこともあって情報把握がしにくくなっています。会員のみなさんで把握されている情報があればお知らせくださいますようお願いいたします。

本部からも「必要なものがあれば送る手段を考えます。宅急便が届けられない地域でも対応を考えます。」との申し出が届いています。

能登半島地震で被災された皆さんへの支援について

能登半島地震で被災されたみなさまに心からのお見舞い申し上げます。

元日の午後 4 時 10 分過ぎに能登を中心に大きな地震が発生しました。

震源地志賀町で震度 7 を記録したのをはじめ、今まで体験したことのない大きな揺れが石川県の広い範囲を襲いました。

家屋の倒壊があいつぎ、大きな火災も発生しました。地震後すぐに津波も広範囲にわたって発生しました。停電や断水も起こり、通信障害も起きて被害の実態が中々つかめず、救援も行き届かない地域も多数に渡りました。

石川守る会にも能登地区の会員が 20 名近くおられます。

ほとんどのお子さんは七尾病院に入所しておられるので命は守られたことと思いますが、広範囲にわたって停電や断水が続いており、不安な日々を過ごしておられるのではないかと気になります。また被災された職員もおられ、十分な介護や医療が受けられているのか心配です。

会員のみなさまの中で被災された方の情報をつかんでおられたり、ご自分やご家族が被災されて、必要な物資が足りないなど困っておられる方は役員まで連絡お願いします。

石川守る会事務局長 紺井さん Tel・FAX 076-288-5413

石川守る会顧問 山本さん Tel 0761-56-0610

FAX 0761-56-0628

本部では必要な支援物資の送付とお見舞い金の募集が始められました。

本部より次ページの文書が出され、全国の会員の皆さんにご協力のお願いがされています。支部としても幸いにも被災を免れたみなさんにご協力のお願いをしたいと思います。同封の振込用紙にてお心をお寄せ頂ければ幸いです。

令和6年1月12日

全国重症心身障害児（者）を守る会

各支部長 様

各ブロック長 様

各ブロック事務局長 様

全国重症心身障害児（者）を守る会

会長代行 小 山 京 子

「令和6年能登半島地震」被災者に対するお見舞い金について（お願い）

連日の報道等にあります通り、1月1日16時10分頃発生した「令和6年能登半島地震」につきましては、石川県能登半島を震源（マグニチュード7.6）とし、志賀町で震度7を、能登地方で震度6強を観測したほか、新潟県・富山県をはじめ日本海側の広い範囲で震度5強などの大きな地震に見舞われました。その後も規模の大きな地震が相次ぎ、家屋の倒壊や火災、土砂災害などの被害が発生しています。今も厳しい寒さの中、不安な日々を過ごされている被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本会では現在、ブロック長・支部長を中心に会員の被災状況の確認に努めておりますが、被災された会員の方々に下記の通りお見舞い金を募ることといたしましたので、会員の皆様に周知を図るとともに、同じ親として、同じ仲間として、ご協力・ご尽力を頂きますようお願い申し上げます。

記

1. 金 額 1口 1,000円（何口でも結構です。）

2. 送金方法

各支部で取りまとめて、以下のいずれかの方法で送金をお願いします。

- 同封の振込用紙にお名前と口数をご記入の上お心をお寄せ頂ければ幸いです。本部への送金期限もあるので2月20日までに送金をお願いします。ご協力よろしくお願いします。

第33回 東海・北陸ブロック大会が開催されました !!

昨年 11 月 18 日(土)～19 日(日)静岡県浜松市で上記の大会が開催されました。

石川守る会からは永井会長夫妻、東副会長夫妻、紺井事務局長、山岸会計担当、石川県肢体不自由児協会父母の会会長でもあり、守る会の賛助会員に入って頂いた松田さん、賛助会員の越野さん、西田さんの 9 名で参加しました。

ブロック各県より来賓・関係者含め 220 余名方の参加がありました。

テーマ ～豊かに生きる、そんな居場所を考えたい～

新型コロナウイルス感染症の流行拡大や毎年のように各地で起こる自然災害に備えて、重症児(者)の生活を守り、豊かにしていくためにそれぞれの立場で考えていく必要があるとの視点で基調講演・シンポジウム・中央情勢報告がされました。

基調講演 テーマ「未来につなげる コロナ禍で得たもの 失ったもの」

講 師 水口 浩一氏

社会福祉法人みなと舎 ライフゆう 施設長/医師
同生活介護事業所 ライフゆうラボ 管理者

パワーポイントで示しながらライフゆうの概要や掲げている基本姿勢などわかりやすく話して頂きました。また、コロナ禍という災害をにどのように乗り越えて、メンバーさんのより良い生活を守ろうとしたか等についても具体的に話されました。

ライフゆうの事業内容

機須賀市の湘南国際村に
2014年に開設した
重症心身障害者入所施設

長期入所(療養介護等) 55名
平均年齢 36歳

医療型短期入所
生活介護 16名
放課後等デイ 5名
相談支援センター



ライフゆうは、みなと舎で初めての医療型事業



生活介護(通所) 「ゆら」1998～

ケアホーム 「はなえみ」2003～「はなあかり」2009～

福祉施設開入所 「ショートステイゆう」2005～

医療型障害者入所施設 「ライフゆう」2014～

生活介護(通所) 「ライフゆうラボ」2020～

ライフゆう設立のメインポリシー

「命は救えたが、人生は救えているか」

「メンバー中心の支援をしているか」

ライフゆうはメンバーさんの生活の場

よりよい人生をおくれる環境を作るチャレンジをしていく。
病院ばかりの家のような入所施設を目指しています。

みなと舎では
利用者さんではなく、「メンバーさん」と呼びます。

「利用者さん」 → 「メンバーさん」

施設を利用する人 (受け身)
ともに暮らしを創っていく人 (能動的な存在)

みなと舎のテーマ 1998～

「メンバーさんらしい人生を支援しよう。」

「メンバー中心の支援をしよう。」

当法人のメインポリシー

コンセプトは「メンバーさんの生活の場所」
(第二の家)

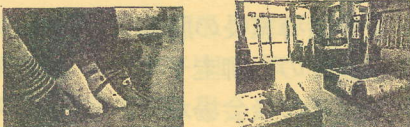
治療のための医療 → 生活のための医療



病院ばくない家のような入所施設を目指す

家のような環境づくり

- ・床は全てじゅうたん
- ・スタッフは靴下
- ・木製のベッド
- ・低床ベッド



コロナでもドクターストップしないポリシー

コロナが流行ってる。危ないからやめておこう。

↓

コロナになっても、行けずして、お困る方々へ
外に出ようよ。やりたいことを始めてみようよ。

コロナで失ったものは、メンバーの生活

メンバーの生活には、スタッフや家族等の
密接なかわりが欠かせない、しかし、

↓

生活の質 vs コロナ対策

生活を豊かにしたいけど、倫理的
コロナを理由に、ジレンマ
どうする、いつまで制限するのか？

倫理的ジレンマに悩みつづけ

コロナのおかげでメンバー目線の重要性を
再認識できた。

↓

コロナを乗り越えれば、よりよい人生支援が
できるようになる。

では、『よりよい人生』とは、どんなものか。

コロナという災害を乗り越えて



メンバーさんの『よりよい人生』とは
施設だけでは実現できない。
もっと、もっと地域を巻き込んだ人生が

地域のニーズにこたえることも大切なんじゃないか

高齢化が進行する地域で、住民の「ここに住み続けたい」に関わる。

↓

通常は支えられる立場の重症心身障害者（施設）
が地域の人々の暮らしを支える活動。

いろいろな大人に「ライオンゆうがあってよかった。」と思ってもらう。
そこから、関わり合いの連鎖がはじまる！

我々が今後進んでいく未来

重症心身障害者施設が地域と共に支えるトライアル

『お互い』が支えあい、持続可能な地域づくり関わりあうモデル。

- ① 高齢化が進行する地域で、住民の「ここに住み続けたい」に関わる。
- ② 『お互い』が意識しあう関係性が生まれる。

ライオンゆうも地域の一部なんだ！壁なんてない！

メンバー、施設スタッフ、地域の人々、お互いの強み（趣味でいい）を
生かして交流し、課題を解決していこう！『お互い』さま。でいこう。

第三種郵便物承認 HSK 増巻 5825 号 2024 年 1 月 21 日発行

記念講演の後は静岡県医療的ケア児支援センターアドバイザーの小林不二也氏をコーディネーターとしてシンポジウムがありました。

聖隷こども家庭総合支援センター所長の大木茂氏から「医療的ケア児と災害」

浜松市発達医療総合福祉センターの阿部祥美氏から「家族支援の基礎」

天竜病院 療育指導室長の藤森豊氏から「豊かに生きる、そんな居場所を考えたい」

静岡県支部副会長の白柳圭子氏から「息子さんのその時々居場所について」

報告されました。その後会場からの質問も多数ありました。

2 日めは式典があり、多くの来賓のみなさんから祝辞がありました。

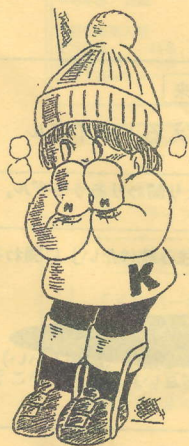
「全国守る会」の常務理事の茶園光彦氏による中央情勢報告がありました。

「児者一貫制度の過去・現在・未来」とのテーマで重症児(者)にとって施設は最後の砦として必要であり、地域の条件が整わない中で安易に脱施設のみを進めるべきではないと強調されました。

最後に来年の開催県である富山支部より参加の呼びかけがありました。

計 報 本会会員山本衛様のご息女絢世さんが令和 5 年 12 月にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

本会会員で重症児ディサービスさくらエール施設長の西村学様が令和 5 年 12 月にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。



編集人	石川県重症心身障害児(者)を守る会
連絡先	920-1154 石川県金沢市太陽が丘 3-19 TEL076-221-6822
会長	永井 一郎
発行人	北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉 312 番地
定 価	30 円